



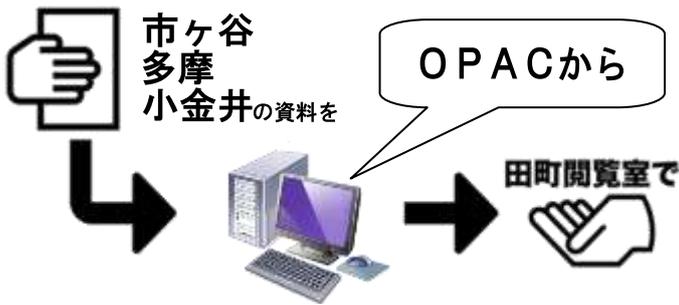
月刊 たまち

→ お知らせ

- ① 資料の取り寄せ方法が変わりました！！ ② ブックポストの場所が変わりました！！

従来の伝票申込みから、OPACにて他館所蔵の資料を田町閲覧室まで取寄せできるようになりました！！

※一部（準貴重書など）取寄せできない資料があります。操作方法等、詳しくはカウンターまでお気軽にお尋ねください。



ブックポストの設置場所が田町校舎 2F エントランスに変わりました！！

閲覧室開室中はご利用になれません。返却本はカウンターまでお持ちください。

※田町校舎入構時間外はご利用になれません。ご注意ください。

③ リユースブックを差し上げます

10/12（水）から、小金井図書館の建築系リユースブックの放出を行います。

田町閲覧室内、入口正面奥のブックトラックに並べていますので、ぜひお立ち寄りください。

無くなり次第終了となりますのでご了承ください。



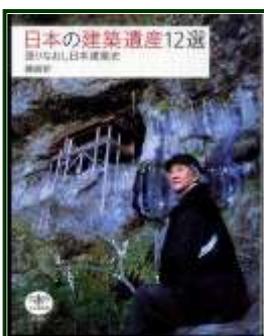
→ 図書のご紹介

【書名】世界のSSD100：都市持続再生のツボ
【著者】東京大学 cSUR-SSD 研究会編著
【請求記号】518/TO



SSDとは、Sustainable Site Designの略。都市再生に対して特徴的な対処をしているSSDを世界中から100事例選び、写真、図版、文章で紹介した本。都市の持続的再生のさまざまな今が詰まっている一冊。

→ 推薦図書のご紹介 教員が学生向けに推薦した図書を1冊ご紹介します



【書名】日本の建築遺産12選：語りなおし日本建築史
【著者】磯崎新著 【請求記号】521/IS

「日本建築とはいったい何か?」。1960年代にキャリアをスタートし、現代にいたるまで、半世紀にわたり世界の建築の最前線で活躍しながら、鋭い切り口の建築／文化批評を行ってきた建築家・磯崎新が、いまあらためて「日本建築」について語りなおす。古代から20世紀までの数多の名建築のなかから自ら選んだ12の「建築遺産」をとりあげ、「垂直の構築」と「水平の構築」という日本建築の二つの流れからその歴史を読みかえる。刺激的でまったくあたらしい、イソザキ流「日本建築史」のはじまり。

➡ 新着図書の紹介

タイトル	著者名	内容紹介	請求記号
Being Geek ：ギークであり続けるためのキャリア戦略	Michael Lopp 著 ：夏目大訳	ソフトウェア開発者のキャリア形成について、シリコンバレーの企業で長年働いた経験を持つ著者が解説する。組織を構成する複雑な人間関係を理解し、自身の力を最大限に発揮しながら、自分にあったキャリアと働き方を提案する本書は、ギークであり続けたいと考えるエンジニア必携の一冊。	007.6/LO
日本発 21 世紀デザイン	日経デザイン編	エネルギー、新幹線、プリウス…。日本発のデザインが、世界を変えていく。これが新時代スタンダード。	501/NI
テクニカル・ライティング必須ポイント 50	Gary Blake, Robert W.Bly 著；畠山雄二、大森充香訳	テクニカル・ライティングにおいて必要不可欠なテーマについて、その重要ポイントを「50の規則」に集約し、具体的に数式や論文の用例を用いてやさしく解説。初学者はもちろん、研究者も現場で活用できる隠れた名著の翻訳。	507/BL
江戸から東京へ大都市 TOKYO はいかにしてつくられたか？	津川康雄監修	なぜ、極東の島国である日本の首都・東京がここまで発展したのだろうか？それは日本人による街づくりの知恵にあった。東京という街の発展の歴史と、現在の東京を形成している、象徴としてのランドマークを紹介する。	518/ED
世界の建築 1000 の偉業	クリストファー・E.M.ピアソン著；畠山昌夫日本語版監修・訳	古今東西の代表的建築物 1000 点を一挙収録。詳細なデータと解説を完備し全世界を網羅する建築史上初のビジュアル・エンサイクロペディア。世界遺産も多数収録し、遺跡・聖堂・近現代の名建築などを訪ねる旅の手引書としても最適。	520/MO
藤森照信	日経アーキテクチュア編	建築家デビュー以来の主要 16 作を収録。未発表の「南方熊楠顕彰館コンペ応募案」の他、「100 年後のグッゲンハイム」など、アンビルド・プロジェクトも公開。小田和正との同級生対談、完全版の他、ライバル・石山修武との対談も収録。	523/EN/4
ふしぎの国のガウディ	X-Knowledge HOME 編	様々な専門分野の識者の視点から見えるガウディ像をつなぎ合わせ、建築、人物、デザイン、文化・歴史背景、音楽、ライバル、日本など多面的な角度からガウディ像をクローズアップして集大成したアンソロジー。	523/GA
震災に強い家	日経ホームビルダー編	震災に強い住まいをいかにつくり、備えるか。実務者が知っておくべき、震災での住宅被害の詳細と、今後目指すべき次代の住宅の姿、市場動向まで提示。	524/NI
覆る建築の常識	日経アーキテクチュア編	津波や液状化現象、長周期地震動、非構造部材など震災で露呈した新たなリスクと対応策を実例で解説。将来の建築計画や街づくりの在り方を提示。一般メディアが注目しない建物被害を網羅的に分析。震災に耐える都市や建築のヒントを実例から探る。被災したり避難所になったりした著名建物をレポート。	524/NI
住まいの手帖	植田実著	戸建て、集合住宅の今昔。現在のわが家、空襲で焼失した生家の記憶…。建築設計の最前線を半世紀見続けてきた編集者が味わい豊かに綴った「住まいのABC」。	527/UE

➡ 新着雑誌の紹介

タイトル	巻号	特集記事
a+u	第 493 号 (2011 年 10 月)	マンハッタン・グリッド 200 年
Casa BRUTUS	第 12 巻第 10 号 (2011 年 10 月号)	いま学ばべき職人の美学。
建築雑誌	第 126 集 1622 号 (2011 年 9 月号)	建築年報 2011—木ノ東日本大震災
GA JAPAN	第 112 号 (2011 年 9-10 月号)	作品 今治市伊東豊雄建築ミュージアム 他
GA DOCUMENT	第 118 号 (2011 年 9 月)	STEVEN HOLL 他
JA : the Japan architect	第 83 号 (2011 年秋号)	やわらかな骨格へ
住宅建築	第 429 号 (2011 年 10 月号)	日常の空間と光
商店建築	第 56 巻第 10 号 (2011 年 10 月号)	ホテル・旅館のリノベーションデザイン 他
新建築	第 86 巻第 11 号 (2011 年 10 月号)	利用者に応える医療・福祉施設
日経アーキテクチュア	第 960 号 (2011 年 9/25 号)	経営動向調査 震災後の成長戦略
アイデア idea	第 59 巻第 5 号 (2011 年 9 月号)	漫画・アニメ・ライトノベルのデザイン
AXIS	第 153 号 (2011 年 10 月号)	ツーリズムにデザイン
md	第 9 号 (2011 年 9 月号)	holz in form 他
デザインノート	第 39 号 (2011 年 10 月)	トップクリエイターが魅せる！「色」で伝えるデザイン
日経ものづくり	第 685 号 (2011 年 10 月号)	生産技術の底力
プレーン	第 51 巻第 11 号 (2011 年 11 月号)	ブランドの未来をひらくパッケージ 他
河川	第 67 巻第 8 号 (2011 年 8 月号)	これからの河川管理～現地における萌芽的な取り組み～
季刊まちづくり	第 32 号 (2011 年 10 月号)	東日本大震災 復興まちづくりシナリオの提案
橋梁と基礎	第 45 巻第 9 号 (2011 年 9 月号)	連載企画 日本橋の保存と管理：第 3 回 文化財としての日本橋の価値と管理
月刊レジャー産業資料	第 44 巻第 10 号 (2011 年 10 月号)	収益拡大に挑むプライダルビジネスの新事業モデル 他
GIS—理論と応用	第 19 巻第 1 号 (2011 年 6 月号)	精度・分類項目の異なる時系列地理情報を活用した土地被覆・植生変遷の把握の有効性—多摩丘陵での事例— 他
GIS NEXT	第 36 号 (2011 年 7 月号)	「フクシマ」を超えて—石油・原子力依存からのエネルギーシフト
city & life : 都市のしくみと暮らし	第 101 号 (2011 年秋号)	震災後の地域・コミュニティ・住まい—再生・復興への視点
地盤工学会誌	第 59 巻第 9 号 (2011 年 9 月号)	土構造物、基礎構造物の維持管理
測量	第 61 巻第 9 号 (2011 年 9 月号)	連載企画「G空間」 移動体計測システムの応用
地域開発	第 565 号 (2011 年 10 月号)	新幹線がつかなく地域—青森から鹿児島まで
地図中心	第 469 号 (2011 年 10 月号)	温泉と紅葉のコラボレーション
地理	第 56 巻第 10 号 (2011 年 10 月号)	東北復興 暮らしと産業の創出
都市問題	第 102 巻第 10 号 (2011 年 10 月号)	エネルギー政策の検証 他
土木学会誌	第 96 巻第 10 号 (2011 年 10 月号)	地域継続力向上を目指して
ナショナルジオグラフィック日本版	第 17 巻第 10 号 (2011 年 10 月号)	ティーンズの脳の驚異 他
日経コンストラクション	第 529 号 (2011 年 10/10 号)	新構造橋梁、20 年の検証
ランドスケープデザイン	第 80 号 (2011 年 10 月号)	東京と大阪から見る水辺都市の復活